

第3回かながわ人生100歳時代ネットワーク会議

日時：平成31年3月15日（金）15：00～17：00

場所：ワークピア横浜3階（かもめ・やまゆり）

会議録の抜粋

・自走化検討部会の検討報告（事務局より説明）

- 今回我々の方からご報告が一つあります。もともとこのネットワークというのは、国の財政支援を受けつつ事業を動かしています。その国の財政支援を受けている中で、自走化するということが条件としてついております。そして、財政支援を受けられるのは平成29年から31年度までということになっておりまして、32年度以降にその支援をいただかない形でどのように皆さんと連携しながら、かながわ人生100歳時代ネットワークを回していこうかということを考え始めて、自走化検討部会というものを今年度立ち上げて検討させていただきました。その検討の内容をご報告させていただきます。
- まず、かながわ人生100歳時代ネットワークは、県民一人ひとりが学びの場から活動の場につながり、地域社会にでていく方々をどんどん増やしていこうということを目的としています。そのしくみを創出するためにネットワークを構築したのですが、その目的を果たすために、ネットワークの最適な運営形態を検討し、より自由度を高めた形で運営していく必要があるのではないかとということで、検討をスタートさせました。
- 検討部会の構成員は、大塚製薬（株）、小田原市、神奈川県、神奈川県住宅供給公社、神奈川大学、さがみはら市民会議、ソーシャルコーディネートかながわ、茅ヶ崎市、（株）横浜銀行、横浜国立大学でございます。
- まず、第1回は9月に開催いたしました。議論のポイントとしましては、
 - ・ネットワークが地域や社会に対してどのような価値を提供することができるか。
 - ・「自走化」とは事業を継続的に回すこと。自走化には責任、資金を伴う。
 - ・メンバーが共感する「ビジョン・あるべき姿」とそこに向けた検討・実装を含めたアクションの積み上げが必要。
- そして、第1回の論点を整理したうえで、第2回部会に臨みました。この回の議論のポイントとしましては、
 - ・人生の充実を目指して「学び」から「活動」につなぐ取組を続けていくために必要なこと
 - ① アクションによって、メンバーにメリット・便益があること
 - ② アウトプットが社会や地域、県民に貢献していること
 - ③ 人脈を生み出すプラットフォーム

- ・「自走化」と言っても、県が事務局機能を担うべき
 ※県が手放すという受け止めをされた方々もいらっしやると思いますが、県がお声掛けさせていただいてネットワークという形になっておりますので、県も主体的にやっていきたいと考えております。
- ・ メンバーがメリット・リターンを享受するためには、リソースの提供、情報の提供、機会の提供など「汗をかく」ことが必要ではないか
- 第2回の論点を整理しますと、もともと根底にはプラットフォームとしての機能があって、そして参加しているメンバーにはそれぞれの立場でのメリット、ベネフィットがあって、皆さんで連携して取組んだことが、社会・地域・県民に貢献するといった公益性を持つようなネットワークになったらいいのではないかと、ということで整理させていただきました。それが結果として、県民一人ひとりの人生の充実を目指して学びから活動の場につながるといふアクションになっていく、それがネットワークの存在意義ではないでしょうかということ整理させていただいております。
- 第3回ですが、例えばそれぞれ皆さんの中で地域課題を解決するという上で、温めているプログラムがあるが、実際に自らだけでやるのは難しい場合などに、ネットワークというプラットフォームとしての機能を活かしたり、県の方でのバックアップなどがあれば、実行に移せるのではないかなど意見がありました。
- 言ってくれば「協力する」というスタンスだけでは、連携・協力関係は生まれないので、やはり「やりたい」という人が皆で集まったうえで、プログラムを動かす。それこそが「自走化」なのではないか、というところに収斂してきました。
- その上で、「この指とまれプロジェクト」という言葉をいただきまして、このネットワークの中でやってみようという流れとなりました。誰かが「これをやりたい」と手を挙げていただいて、それに「いいね」と共感した人達で集まって、本当に自発的なプロジェクトを動かしたらどうだろうということ。その動きが何本もネットワークのプラットフォームの上に生まれてくれば、動きも活発になりますし、またそれをうまくPRできればネットワークの存在価値自体も高まるのではないかとこともあって、ぜひやってみようかということが部会の方でまとまってきました。
- 現在、「カッコイイおとなプロジェクト」「生涯現役マルチライフ推進プロジェクト」「ご近所ラボプロジェクト」の3つのプロジェクトを走らせています。このネットワークのメンバーも順次拡大しておりますが、途中から入ってきてプロジェクトに対してなかなか意見が言えないという方ももしかしたらいらっしやるかもしれません。ですので、この3つのプロジェクトはそのまま動かしていき、それとは別の提案型のプロジェクトをやってみようと考えました。
- 「この指とまれプロジェクト」の目的は、ネットワークメンバーの自発的なプログラムの企画があり、周辺のネットワークメンバーの自発的な協力があってプログラムを動かしていくことです。メンバーがそれぞれ強みを持ち寄ってプログラムを実施し、それが自走化したプログラムとなり、そしてプログラム成果を発信することで、ネットワークステータスを上げていければ、このネットワークに参加してよかったということ

につながり、ネットワーク以外のところへの発信力がどんどん高まっていき、人を惹くつけるネットワークになれるのではないかという思いがあります。

- 次に「この指とまれプロジェクト」の大まかな流れをご説明いたします。まずプレゼンをしていただきます。自ら提案したプログラムについてプレゼンをしていただき、それから協力したいというメンバーの方にプログラムを選択していただき、そこでグループを結成してプログラムを走らせます。できれば、2019年度中に成果報告までいきたいと考えています。

- そして、現在想定している提案条件ですが、
【ねらい】社会、地域、県民に貢献するプログラム

【プレゼンの構成】

- ① 事業の概要
- ② 事業の期待する効果
- ③ 事業の実施場所
- ④ 事業のスケジュール
- ⑤ 期待するリソース（財政面、場所、人脈、スキル等）

【費用】原則として、事業提案者及び事業参画者が負担

【実施期間】2019年度内

【事業参画】提案者+参画者1人以上 = 2人以上

- 現在想定しているスケジュールですが、ネットワーク会議の後にプロジェクト募集をかけさせていただき、5月にはプレゼンテーション・マッチング、5月以降に順次プロジェクトをスタートし、9月にフォローアップ、3月で成果報告といった年間スケジュールを考えています。
- 冒頭で申し上げましたが、国の地方創生推進交付金の支援を受けて事業を実施できるのは2019年度までとなっております。ネットワークを財政支援がなくなっても、成果を出しながら皆で連携して動かしていくためにも、動かし方を考えていかないといけないと思っています。国の財政支援がなくなると、県の予算要求もかなり厳しくなってくるという側面もありますので、ぜひ「この指とまれプロジェクト」でうまく自走化の道筋をつけられたらいいなという思いでおります。
- 以上が自走化検討部会で検討させていただいた内容のご報告でございます。